

小浜地域審議会

提 言 書

平成28年3月29日

小浜地域審議会

はじめに

昨年１０月１１日をもって１０年の節目を迎えた雲仙市において、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりを進められてこられたことに對し、心から敬意を表します。

さて、小浜地域審議會は、合併から平成２６年３月に至るまでの８年間に渡り、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、市長の諮問に對し答申するとともに、小浜地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策を提言してまいりました。

この度、私たち１５名は、平成２６年８月に市長から委嘱を受け、第５期地域審議會の委員として活動を始めて以来、市制施行１０周年という節目を迎えた雲仙市のこれまでを振り返る総括的な視点に立ち、合併時に策定された「新市建設計画」を踏まえて策定された「雲仙市総合計画」の執行状況に関する事項に係る市長からの諮問に對し、審議を行なうとともに、地域振興に関して、本地域のこれからの歩みを地域住民の目線から展望し、現状と課題を踏まえた解決策について、「移住・定住促進」と「観光産業の振興」、「小浜体育館の建替え」をテーマとした提言書を取りまとめました。

委員一同、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現を切に願っており、その思いを小浜地域審議會の提言書として提言いたします。

平成２８年３月２９日

雲仙市長 金 澤 秀 三 郎 様

小浜地域審議會

会長 今崎 正敏

目次

提言 1 : 「移住・定住促進について」・・・ P 1

提言 2 : 「観光産業の振興について」・・・ P 3

提言 3 : 「小浜体育館の建替えについて」・・・ P 4

提言1「移住・定住促進について」

1. 現状と課題

本地域の人口減少は著しく、人口の減少率は市内で最も高い数字を示しています。このまま人口減少が進むと平成32年には7,600人を下回ることが推計されており、人口減少対策は本地域にとって最重要課題となっております。

本地域は、市の南側に位置しているため、生活の利便性は他地域に及ばない面がありますが、温泉や豊富な食などの本地域特有の魅力や資源を有しており、こうした地域の強みを強化するとともに、現在の高い人口減少率の要因を正確に分析し、対策を講じることで、人々の本地域への愛着心を育む取組みが求められます。

2. 特に、

- ・暮らしの利便性の向上による定住促進対策
- ・地域資源の有効活用と、情報発信による移住促進対策

3. 具体的には

[定住促進対策]

- ・本地域には、公共交通機関が島原鉄道(株)のバスしかなく、通学費用が高額となるため、子どもの進学をきっかけとして、転居する世帯が増加しております。通学費用に一定の支援を行う制度を創設するとともに、通学時間帯のバスの増便などを事業者側に働きかけ、地域への定住を促す必要があります。
- ・本地域には、文化施設が不足しており、特に現図書館は、奥まった利用しづらい立地にあり、駐車場が狭小であることなどから、利用率が低迷しております。現小浜総合支所の空スペースを図書スペースとして開放することで、本地域の文化振興と生涯学習の発展を目指す必要があります。
- ・定住に向けたまちづくりには、医療設備の充実是不可欠な要素となり、現在建設が計画されている公立新小浜病院は、地域医療の中核を担う施設として期待されています。整備にあたっては、診療科目の増加や、ER(救急救命室)、人間ドッグの受入施設、リハビリテーション施設の設置等、機能強化が望まれます。

[移住促進対策]

- ・人口の減少に伴い、本地域では、現在、相当数の空き家等が存在していることが考えられます。空き家は放置することで、周囲へ悪影響を及ぼす場合がありますが、優良な空き家を、子育て世帯のような広い住環境を求める世帯に、積極的に周知することにより、空き家活用の好循環が図られ、移住促進対策となることが考えられます。

第5期小浜地域審議会提言書

- ・本地域は、豊かな自然と、美しい景観を有しており、また豊富な湯量を誇る温泉や、登山、釣りといった趣味の面からも、個人が望むライフスタイルに応じた生活を送れることも本地域の魅力であると考えられ、移住希望者が思い描く移住後の生活の舞台として最適なロケーションを有していると考えられます。都市部で定年を迎えたアクティブシニア層など、移住政策のターゲットを絞り、移住後のイメージを描ける具体的なメニューを作成し、提案するといった効果的な広報を展開することで、都市部人口の移住を促進する必要があります。
- ・移住希望者の移住に関する不安の軽減を図るため、移住相談窓口の存在を広く周知するとともに、移住者目線での相談対応、移住プランのコーディネート等の充実が必要です。

提言2「観光産業の振興について」

1. 現状と課題

国において「広域観光周遊ルート」が形成されたことや、外国人観光客の増加など観光産業の重要性は増大していると考えられます。

本地域には、日本で初めての国立公園に指定された「山の温泉雲仙」と湯治場として栄えた「海の温泉小浜」という2つの魅力ある観光地を有しており、本地域だけではなく、本市の観光産業の振興を図るうえでは、現在活況にある観光業の流れを捉えた取組みが求められます。

2. 特に、

- ・観光客のニーズの把握に優先的に取組むとともに、新しいスタイルの観光客への対応が求められます。
- ・温泉だけではなく、地域の魅力を活かした観光メニューの創設に取り組む必要があります。

3. 具体的には

[新しい観光に向けて]

- ・本地域においても、外国人観光客が増加したことや、日帰り旅行客の増加など、観光客の様態に変化が見られます。変化するニーズに応じたサービスの供給体制を整えることが必要です。そのためには、観光客のニーズの把握を優先的に行なう必要があります。

[修学旅行の誘致]

- ・小浜温泉、雲仙温泉は多数の修学旅行の団体客が訪れ、賑わいを見せてきましたが、近年ではその数が減少しております。地域の資源を見直し、修学旅行用の観光コースの整備が求められます。

(観光資源候補：バイナリー発電、グリーンツーリズム、国崎半島ブルーツーリズム 等)

[担い手の確保]

- ・観光産業においては、従業員不足が深刻化しており、人材の募集を行っていますが、採用状況は芳しくありません。これは、募集に関する周知が図られていないこと、募集内容と就職希望者の希望する条件にミスマッチが生じていることが原因と考えられるため、募集から採用に至るまで、市が支援し、地域基幹産業の担い手の確保に努める必要があります。

提言3 「小浜体育館の建替えについて」

1. 現状と課題

小浜体育館は、地域のスポーツ振興はもとより、各種イベントやコンベンション、学生の日常的な部活動での利用等、多目的に活用されてきており、地域住民にとって大変親しみ深い施設となっております。

しかし、昭和42年に建設された同施設は、雨漏りがするなど老朽化が目立ち、冷房が十分に機能せず、夏場は熱中症が懸念されるため、各種イベントやコンベンションの会場の候補地から除外される事もあります。

本市西部地区には、大規模な体育施設が同体育館以外になく、今後も地域住民の健康維持、生涯学習の推進を図っていくために、小浜体育館に関する下記の対策が求められます。

2. 特に、

- ・小浜体育館は、老朽化が激しく、早期に建替えの必要性を調査、検討する必要があります。
- ・観光地として、多くの宿泊施設がある本地域に、新しい施設を整備することにより、大規模なスポーツ大会やコンベンション、スポーツ合宿等が誘致され、宿泊客の増加も期待できます。

3. 具体的には、

- ・小浜体育館は、老朽化による不具合に対し、一部補修や改修で対応してきておりますが、今後維持費用は更に増大していく事が予想されるため、小浜体育館の建替えによる経済波及効果等も考慮して、早期に建替えの必要性を調査、検討する必要があります。
- ・調査の結果、小浜体育館の建替えに関し、必要性が認められた場合は、整備計画等の策定が急務であります。
- ・計画の策定にあたっては、市外から多数の誘客がある本地域の特性を踏まえ、観光業等、多方面からの新施設建設に関する意見の聴取が必要です。